



政治専攻「演習1」
第1期第1次募集



【目次】

1. 募集について	1 頁
2. 募集に関する注意事項	2 頁
3. 選考方法	3 頁
4. ゼミ内容	5 頁
➤ 稲垣 浩先生	5 頁
➤ 小原 薫 先生	6 頁
➤ 菊田 真司 先生	7 頁
➤ 坂本 一登 先生	8 頁
➤ 芝崎 祐典 先生	9 頁
➤ 藤嶋 亮 先生	10 頁
➤ 宮下 大志 先生	11 頁
➤ 羅 芝賢 先生	12 頁

1. 募集について

【募集スケジュール】

第 1 期 第 1 次 募 集	
応 募 期 間	2023年10月7日（月）正午～10月21日（月）12時50分
選 考 期 間	2023年10月22日（火）～10月28日（月）
合 否 発 表	2023年10月29日（火）20時予定 K-SMAPYIIにて

※第1期第2次募集の実施は第1期第1次募集の応募状況によって決定します。実施する場合、すべての教員に応募できるとは限りませんので、予めご了承ください。

第 1 期 第 2 次 募 集	
応 募 期 間	2023年10月30日（水）正午～11月6日（水）12時50分
選 考 期 間	2023年11月7日（木）～11月12日（火）
合 否 発 表	2023年11月13日（水）20時予定 K-SMAPYIIにて

※第1期第2次募集において、全1年生が登録できていない場合に限り、未確定者を対象に第1期第3次募集を行います。

【応募方法】

K-SMAPYII より

※ログイン後、上部バナー「アンケート」より応募してください。

※K-SMAPYIIからの応募がなく面接を受けるまたは課題提出だけをしているケースがありましたので必ずK-SMAPYIIからの応募も行ってください。応募がない場合は無効になります。

2. 募集に関する注意事項

- (ア) 上記の募集期間に必ず応募してください。応募期間外の応募は認められません。
- (イ) K-SMAPYIIからの応募がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありましたので、必ずK-SMAPYIIから応募も行ってください。
- (ウ) 担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なります。「選考方法」で必ず内容を確認の上、応募するようにして下さい。
- (エ) 毎年ありますが、提出期限を超えたりレポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎはいたしません。
- (オ) 政治専攻では、同一年度に複数ゼミを受講することが出来ます。2つ目のゼミを希望する場合には11月に行われる**第2期募集**で応募できます。
- (カ) ゼミに合格後、他のゼミへの変更はできません。
- (キ) 各教員の連絡先は個人情報のため、お教えできません。
- (ク) ゼミ応募に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

【問い合わせ先】

教務課	①9時～12時50分 ②13時50分～20時30分
法学資料室（若木タワー7階）	①9時～17時

※月曜日～金曜日で受け付けます。

※日曜日・祝日は学年暦に準じ、授業実施日に限り開室いたします。

3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

例年、レポートの提出期限や面接日時を間違えているケースがありますので、ご注意ください。

教員名	選考方法	提出方法・レポート締切日時	レポート内容	備考
		面接日時	面接教室	
稲垣 浩	レポート	メール送付 inagakih@kokugakuin.ac.jp 10月21日（月）12時50分	①最近気になった自治体行政に関する話題 ②本ゼミへの志望動機	（書式）A4用紙 （40字×36行） （字数） 題目①500字以上800字以内 題目②300字程度
	面接	10月22日（火） 14時45分～17時30分	若木タワー8階0807研究室	
小原 薫	レポート	面接時持参	小原ゼミへの志望理由と、最近関心のある政治、社会の問題	（書式）自由 （字数）600～800字
	面接	10月22日（火） 12時00分～12時50分	若木タワー8階0801研究室	
菊田 真司	レポート	面接時持参	自己紹介とゼミの志望理由	（書式）A4 （字数）1,000字程度
	面接	10月22日（火） 12時10分～12時40分	若木タワー7階0712研究室	
坂本 一登	レポート	メール送付 kazutos@kokugakuin.ac.jp 10月21日（月）18時00分	志望理由と最近関心を持っている政治的出来事	（書式）自由 （字数）1,000字程度
	面接	10月22日（火） 12時30分～13時30分	若木タワー7階0705研究室	

教員名	選考方法	提出方法・レポート締切日時	レポート内容	備考
		面接日時	面接教室	
芝崎 祐典	レポート	面接時持参	(1)ゼミ志望理由 (2)勉強の中で今まで最も関心を持ったこと	(書式) Word (字数) 800~1,000字
	面接	10月24日(木) 18時00分~	3310 教室	
藤嶋 亮	レポート	メール送付 rfujishima@kokugakuin.ac.jp 10月20日(日)12時50分	簡単な自己紹介、ゼミの志望理由、関心のある政治・社会問題について	(書式) 自由 (字数) それぞれ400字程度 計1,200字 <u>必ず連絡がつくメールアドレスをレポートに記載してください</u>
	面接	10月22日(火) 13時00分~16時30分	オンライン	
宮下 大志	レポート	メール送付 miyashita@kokugakuin.ac.jp 10月23日(水)15時00分	現在の日本の政治をどう評価するか	(書式) 自由 ただし Word ファイルか Pages ファイルでメール添付提出 (字数) 1,200字
	面接	10月24日(木) 14時40分~	若木タワー 8階 0810 研究室	
羅 芝賢	レポート	メール送付 j-na@kokugakuin.ac.jp 10月20日(日)23時59分	①これまで読んだ政治・行政に関する本の中で、最も興味深かったものとその理由 ②ゼミ志望理由	(書式) A4・Word (字数) 800~1,000字

4. ゼミ内容

[【目次に戻る】](#)

教員名	稲垣 浩
演習テーマ	行政・地方自治・地域社会の動態分析
演習内容	<p>このゼミは、文献の講読や実地調査などを通じて、行政・地方自治の現状や動態に迫ろうとするものです。2024年度は「行政による伴走型支援」をテーマに、自治体による様々な社会問題や地域活動への伴走型支援に関する文献の講読を行ってきました。また、大分県や世田谷区などでのまちあるきやヒアリングなど、「現場」での学びも大切にしています。</p> <p>2025年度も、前期は全員で行政・地方自治に関する図書や論文を読み、報告者による発表、ゼミ生全員にコメントペーパー（A4用紙1枚程度）の提出、ディスカッション、グループ調査を行います。夏休みから後期にかけては、各自の関心に基づいて研究テーマを設定し、それらについて調査・研究した内容を論文にまとめます。夏休み中には、自治体等の視察を含めた合宿を行うほか、一年を通じてまちあるきや自治体へのインタビュー、合同ゼミ調査などを可能な範囲で行う予定です。</p> <p>フィールドワークや取材など、外部との接触が多くなることが予想されますので、外部の方々に礼儀正しく接することができる学生、またはそれらの能力を高めたいと考える学生を求めます。また、他者とのディスカッションや主体的な相互協力ができる学生を求めます。</p> <p>課題レポートには、取り上げる自治体行政に関する話題が「なぜ」気になり、それに対してどのように考えたのか、応募者のプライバシーや個人情報に過度に犠牲・露出しない程度で具体的に明記してください（題目①）。また、志望動機を300字程度で記入してください（題目②）。</p>
教科書	授業中あるいは授業前に適宜指示する。
参考文献	<p>中野邦彦・本田正美（2021）『地域研究ハンドブック』勁草書房 磯崎・金井・伊藤（2020）『ホーンブック地方自治（新版）』北樹出版 曾我謙悟（2019）『日本の地方政府』中公新書 辻陽（2019）『日本の地方議会』中公新書 など</p>
備考	<p>上記の参考文献は、基礎的な知識となる行政・地方自治の現状を知るための参考文献です。</p> <p>面接は、基本的に10月22日（火）の14時45分から17時30分までの時間帯に対面で行いますが、応募者とメールで都合を調整する予定です。そのため、提出するレポートに連絡先となるメールアドレスを必ず記載し、こちらから送付するメールを必ず確認するようにしてください。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	小原 薫
演習テーマ	現代日本の政治、思想を考える
演習内容	<p>足りない年金、選択制夫婦別姓、米中貿易戦争、ウクライナ紛争、パレスチナ問題等、日本を取り巻く問題は山積している。そうした中で、傍観者として臨むのではなく、何が問題なのか、より深く考えて考察する必要がある。</p> <p>小原ゼミでは、前期は、新書を中心に、現在の日本を取り巻く問題について、討論を行う。後期は、各自が設定するテーマに従って、調査・研究を行い、随時、中間報告を行いながら、一つのレポートとしてまとめることを目指す。</p> <p>無断欠席は認めない。積極的にゼミ活動に参加し、討論する積極的な学生の参加を望みます</p>
教科書	ゼミ開始時に指定します。新書を2, 3冊予定
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>菊田 真司</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>ジョン・ロールズと現代政治哲学の基礎</p>
<p>演習内容</p>	<p>政治にかかわるさまざまな価値や考え方について、原理的に検討していくのが、政治哲学と呼ばれる分野です。50年ほど前にジョン・ロールズという政治哲学者によって、この分野に大きな転換がもたらされました。</p> <p>所得の再分配の問題を始め、多文化共存の問題、国際的な不平等是正の問題、世代間正義の問題、など、現代の諸課題に関する政治哲学的な議論のほとんどは、ロールズ思想から始まっています。（なお、ロールズのいう「正義」とは、「公正」のことで、「悪」に対する「正しいこと」という意味ではないので、注意してください。）</p> <p>今年度の演習では、ロールズ思想を検討することで、現代の政治哲学の基本的な考え方を理解することを目標とします。最近出たロールズ思想の入門書を使い、その要点を整理し、さらにロールズ思想の広がりについても考えて行く予定です。</p> <p>演習は、指定されたテキストを読み、担当者が報告した後で、全員で討論する形で行われます。また、演習参加者には、自分の好きなテーマについて論文を執筆してもらい、論文報告会で報告してもらいます。</p> <p>選考にあたっては、議論に積極的に参加する意欲のある人を優先します。</p>
<p>教科書</p>	<p>『今を生きる思想 ジョン・ロールズ 誰もが「生きづらくない社会」へ』、講談社現代新書、2024年 『ジョン・ロールズ 社会正義の探求者』、中公新書、2021年 神島裕子、『正義とは何か 現代政治哲学の6つの視点』、2018年</p>
<p>参考文献</p>	<p>マイケル・サンデル、『これから正義の話をしよう』、ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年 ジョン・ロールズ、『公正としての正義 再説』、岩波現代文庫、2020年</p>
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・面接日に都合が悪い等の連絡や、演習内容についての質問は、karita@kokugakuin.ac.jp までメールで送ってください。 ・「政治哲学入門」を履修済み・履修中・履修予定のいずれかであることが望ましいです(応募条件ではありません)。

[【目次に戻る】](#)

教員名	坂本 一登
演習テーマ	戦前の政党と議会政治
演習内容	<p>2024年は、選挙の年であった。1月の台湾総統選挙をはじめとして、韓国、インド、英国、フランス、イランと続き、11月には米国大統領選挙がある。選挙は、各国の政治を大きく変貌させ、新たな政治の動きが始まっている。日本においても、自民党および立憲民主党の新リーダーを選ぶ選挙が続き、新たな政党政治および議会政治が模索されている。こうした状況に鑑み、来年度は、戦前日本の政党政治および議会政治の歴史をふり返り、日本政治の将来を考察することを狙いとする。現代においても、2009年政権交代が実現し、民主党政権が誕生した時、日本における二大政党制の可能性が、しきりに論じられた。それから、15年、二大政党制確立の可能性は遠のいたようにみえる。それでは、戦前の日本では、約8年間とはいえ、なぜ政党内閣の時代が誕生し、なぜそれが崩壊したのか、その経緯を考察することは、今後の日本の政治を考える示唆を与えてくれるかもしれない。まず昭和戦前期の政党や議会史を概観するところからはじめ、21世紀の政治を念頭におきながら、政党政治の可能性や議会政治とは何かを考えていきたい。</p> <p>なお、演習は、前期は文献講読、後期は論文作成をおこなう。前期講読における報告と後期の小論文の完成は、単位取得のためには必須である。演習なので、全回出席が原則であり、無断欠席の場合は、除名することがあるので、留意すること。</p>
教科書	勝田龍夫：重臣たちの昭和史上下巻 文春文庫
参考文献	栗屋憲太郎：昭和の政党 岩波現代文庫 筒井清忠：昭和戦前期の政党政治 ちくま新書 小山俊樹：五・一五事件 中公新書 古川隆久：戦時議会 吉川弘文館
備考	面接時間が不都合な場合は、メール (kazutos@kokugakuin.ac.jp) にて相談すること。対応可能です。

[【目次に戻る】](#)

教員名	芝崎 祐典
演習テーマ	国際関係と文化、政治と文化
演習内容	<p>国際関係において軍事安全保障や経済が重要であることは言うまでもありませんが、ならんで広い意味での「文化」もまた重要です。例えばナショナリズムや言語、宗教、感情や「ものの考え方」などさまざまなものが国際関係に影響を及ぼし、また対外行動の目的になったりします。</p> <p>反面、文化の立場から見ても、およそあらゆる公式文化は政治性を持っています。「文化に政治を持ち込むな」というのは理想としては正しいですが、現実はそうではありません。</p> <p>演習では、一見するとお互いに無関係に見える政治や国際関係と文化の関係を中心に皆で考えてみたいと思います。</p> <p>前期は広い意味での文化と国際関係（の歴史）に関わる文献を輪読します。割り当て箇所を発表してもらい、それをもとに参加者全員で討議します。読んでもらう課題文献の分量は少なくなく、密度も高いものなので、積極的に勉強したい学生を歓迎します。</p> <p>後期は参加者各自がテーマを設定し、自らリサーチしてまとめた研究を発表してもらいます。期末にはそれに基づいたゼミ論（研究論文）を提出してもらいます。テーマ設定や研究の進め方、論文の書き方などの方法論については随時指導します。</p>
教科書	開講時にご案内します。
参考文献	適宜紹介します。
備考	ゼミに応募を希望する学生は、以下のレポートを Word で作成して面接時に持参してください。 (1)ゼミ志望理由、(2)勉強の中で今まで最も関心を持ったこと（国際関係論や国際関係史に限らず、何の分野でも良い）：この二つを盛り込んで自由に文章を作成してください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	藤嶋 亮
演習テーマ	ポピュリズムと民主主義
演習内容	<p>政治をめぐるニュースや議論のなかで、「ポピュリズム」という言葉を耳にしたことはあると思います。この言葉は、歴史的には人民主義などと訳されてきましたが、近年では、単なる人気取りの政策や、「敵」を名指しして国民を煽る無責任な政治として、批判的に使われることが多くなりました。実際、ポピュリズムのマイナス面は、日本に限らず、ヨーロッパやアメリカにおいても大きな問題となっています。その一方で、民主主義である以上、「大衆的な人気」自体は望ましい、必要なものであるとも言えます。また、ポピュリズムが成長する背景には、現在の政党政治の問題点、さらには社会の大きな変容が存在すると考えられます。本演習では、まず、ポピュリズムとは何であるのかという観点から、その歴史の変遷や多様なあり方について整理します。その上で、現在ポピュリズムが「流行」している理由について考察し、民主主義とは切っても切り離せない、この現象との付き合い方について考えていきたいと思います。授業の進め方としては、前期はポピュリズムや民主主義をテーマとした新書・概説書、後期はポピュリズムに関するやや専門的な文献を全員で読み進めます。後期はさらに、参加者が関心を持った個別テーマの報告を行います。また、初回の授業時に、各回の担当班を決定し、第2回目以降、発表と全員が毎回事前に提出するコメントに基づき、内容の確認や検討、討論を行います。取り上げるテキストはいずれも骨太の内容であり、関係するテーマ・領域も多岐にわたりますので、自分なりの関心・問題設定に基づいて、毎回の演習に臨む姿勢が期待されます。</p>
教科書	C・ミュデ, C・R・カルトワッセル『ポピュリズム：デモクラシーの友と敵』（白水社, 2018年）
参考文献	水島治郎『ポピュリズムとは何か』（中公新書, 2016年）, ヤン＝ヴェルナー・ミュラー『ポピュリズムとは何か』（岩波書店, 2017年）, 渡辺博明編『ポピュリズム、ナショナリズムと現代政治』（ナカニシヤ出版, 2023年）など
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	宮下 大志
演習テーマ	「日本の政治、日本の民主主義、そして日本の未来、どうしたらいい？」
演習内容	<p>日本の政治、日本の民主主義、そしてこれからの日本のあり方について論じてみたいと思います。</p> <p>あなたは、現在の日本の政治、そして（ちょっと抽象的になってしまいますが）日本の民主主義についてどう思っているのでしょうか？</p> <p>また社会の状況としても、格差問題、女性の権利の問題などをどうするべきか、問いかけられている状況ではないかと思いますが、どう考えますか？</p> <p>どちらについても、人によって評価はさまざまでしょう。それが現状だと思います。</p> <p>そこで来年度のゼミでは、この日本の政治・民主主義さらには日本の社会について、多様な意見を持った人に集まってもらい、どう評価すべきか、今後はどうなるのが望ましいかななどを論じてゆきたいと思います。</p> <p>そしてそのために、過去の日本の政治を検討したり、現在の問題点を考えたり、今後のあるべき姿を議論したり、ということをごみなさんとやってゆく予定です。</p> <p>そしてその際には、多少は欧米との比較や理論的考察も盛り込めたら、とも考えています。</p> <p>なお、応募者は、「<u>現在の日本の政治をどう評価するか</u>」というテーマで、自分なりの評価を記したレポートを期日までにメール添付で提出してください。もちろん、あなたの政治的指向性で判断するわけではなく、「どれだけ考えているか」を見たいのです。その際、必ずメール本文に応募者の氏名を明記してください。</p>
教科書	開講時に指定します
参考文献	必要に応じて紹介します
備考	<p>面接は、対面での面接としたいと思います。個別面接ですので、全体としては10/24（木）の14:40開始ですが、その時間に集合していただいた上で、個人個人の面接時刻を指定します。</p> <p>面接の日時にどうしても都合がつかない、あるいは面接開始時間を配慮してほしい（「15:15には大学を出なければならないのでその前に設定してほしい」など）場合にはメールで早めに知らせてください。メールでのやりとりで相談させていただきます。</p> <p>なお、面接は一人15分ほどを予定しています。ですので、応募者が例年になく多くならない限り、当日の対面での面接は遅くとも16時には最後の面接を終えられるかと思っています。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	羅 芝賢
演習テーマ	現代日本行政
演習内容	<p>2025年度は福祉国家の再検討をテーマとします。これまで福祉国家に関する研究では、脱商品化や脱家族化という指標を用いて福祉国家の質を評価するのが一般的でした。資本主義がもたらす弊害を是正するものとして福祉国家の役割を位置づけ、その権力資源として労働者の組織を想定したのです。しかし、それらの指標に注目するだけでは見逃されてしまう、福祉国家の重要な特徴があります。それは、福祉国家の財源の大きな部分が、複雑な行政手続きを処理するために使われていること、その行政手続きに用いられる恣意的な基準によって人々が分類されていること、そして、福祉の対象として想定される「標準的」な人間に該当しない人々が、しばしば福祉から疎外されてしまうということです。こうした問題について考察するに際して、従来の行政学ではストリートレベル官僚（第一線公務員）に注目し、その原因を行政資源の不足や曖昧な評価基準などに求めてきました。しかし、行政資源が増大したところで、人々を分類するのに使われる行政の恣意的な基準がなくなることはありません。歴史を遡れば、そうした基準はもともと国家のために戦場で命を捧げた人々への補償として誕生した諸制度が、その対象を拡大させていく過程で生み出されたものであることが分かります。その過程において、福祉国家を支える基礎は、ナショナリズムという情念から、無味乾燥な行政手続きへと変容していったのです。</p> <p>こうした視点を取り入れて、2025年度の演習では福祉国家の再検討を行うための文献講読を行います。前期は、文献輪読を通じて、報告の仕方、コメントの仕方、参考資料検索の仕方などを身につけることを目標とします。後期は、輪読を完了した後、ゼミ論文の完成を目指して研究を行い、論文報告会を開催します。</p>
教科書	<p>M・イグナチエフ『ニーズ・オブ・ストレンジャーズ』 R・M・ティトマス『福祉国家の理想と現実』 菅沼隆ほか編『戦後社会保障の証言—厚生官僚 120 時間オーラルヒストリー』</p>
参考文献	適宜紹介します。
備考	資料収集の仕方を学ぶため、国会図書館や公文書館への「遠足」も予定しています。

法学部法律学科政治専攻「演習1」

第1期第1次募集要項

現1年生（現2年生：演習I未履修者）対象